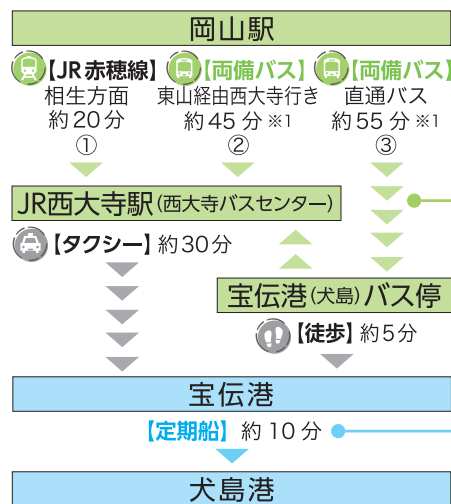


岡山市犬島 ガイドMAP

INUJIMA



JR・バス等で宝伝港へ



宝伝港～犬島港

【定期船】株式会社あけぼのマリタイム
☎086-947-0912
■所要時間:旅客船(約10分) ■定員:60名
■片道運賃:大人400円・小人200円
※荷物料金がかかる場合がございます。

両備グループ バス・電車お客さまセンター
☎086-230-2130(平日9:00～17:30)

【JR岡山駅～宝伝港直通バス】
犬島アクセスバス(JR岡山駅発着)

西備バス		西備バス	
岡山駅⑩発	宝伝港着	宝伝港発	岡山駅着
9:52	10:45	16:05	17:05
※4 11:52	12:45	※4 17:45	18:45

※4、「瀬戸内国際芸術祭2025」期間中の土日祝のみ運行

■片道運賃:大人880円・小人440円

■運行期間:2025年4月4日～

(犬島精錬所美術館休館日は全便運休)

【宝伝港～JR西大寺駅直通バス】

※「瀬戸内国際芸術祭2025」期間中の土日祝のみ運行

西備バス			
宝伝港発	観音院入口着	西大寺駅着	西大寺バスセンター着
13:50	14:10	14:15	14:20

■片道運賃:大人510円・小人260円(西大寺まで)

大人470円・小人240円(観音院入口まで)

■運行期間:2025年4月19日～

(犬島精錬所美術館休館日は全便運休)

※2,犬島精錬所美術館開館日のみ運行 ※3,日曜日運休

宝伝港発		犬島港発	
6:40	13:45	6:55	14:00
8:00	15:15※2	8:20	15:35※2
11:00	17:00	11:15	17:15
13:00	18:30※3	13:20	18:45※3

※2,犬島精錬所美術館開館日のみ運行 ※3,日曜日運休

岡山京橋～犬島港～豊島(唐櫃港)

株式会社岡山京橋クルーズ ☎086-201-1703

■定員:66名

■運航期間:「瀬戸内国際芸術祭2025」期間中の土日祝

(4月29日は除く)

3月、4月、6月、7月、9月の第1日曜日

岡山京橋発	犬島着	犬島発	唐櫃着	唐櫃発	犬島着
9:40	10:45	12:10	12:45	12:55	13:30
犬島発	唐櫃着	唐櫃発	犬島着	犬島発	岡山京橋着
14:30	15:05	15:15	15:50	16:00	17:05

運賃	大人 (小人)	京橋～犬島	2,000円(1,000円)
		犬島～唐櫃	1,000円(500円)
		京橋～唐櫃 ※犬島経由	3,000円(1,500円)

犬島港～豊島(家浦港)～直島(宮浦港)

【高速旅客船】※お車・二輪車・自転車での乗船はできません。

四国汽船株式会社 ☎087-821-5100

直島発	豊島着	豊島発	犬島着	犬島発	豊島着	豊島発	直島着
9:20	9:42	9:50	10:15	10:25	10:50	10:55	11:17
12:10	12:32	12:40	13:05	13:10	13:35	13:40	14:02
14:50	15:12	15:17	15:42	15:47	16:12	16:17	16:39

※豊島美術館・犬島精錬所美術館休館日の場合は運休。

※直島～犬島(経由)の切符では、豊島(家浦)で途中下船が

できませんので、ご注意ください。

運賃	直島～豊島	豊島～犬島
	630円(320円)	1,250円(630円)
大人(小人)	1,880円(940円)	

犬島港～小豆島(土庄港)

【臨時航路】小豆島急行フェリー(株) ☎0879-62-0875

※問い合わせは、運航期間のみ

■所要時間:旅客船(約25分) ■定員:75名

■片道運賃:大人1,500円・小人750円

■運航期間:「瀬戸内国際芸術祭2025」期間中の金・土日祝

土庄発	犬島着	犬島発	土庄着
10:05	10:30	10:35	11:00
12:10	12:35	12:40	13:05
16:00	16:25	16:30	16:55

岡山の観光ならおまかせ!!

岡山市ももたろう観光センター TEL▶086-222-2912

営業時間▶9:00～20:00 定休日▶年中無休 アクセス▶岡山駅 2 階新幹線乗降口東側

「瀬戸内国際芸術祭2025」の開催期間 2025年4月18日～5月25日・8月1日～8月31日・10月3日～11月9日

(2025.3現在) 発行:岡山市プロモーション・MICE推進課



犬島精錬所美術館 写真・阿野太一

犬島は、瀬戸内海に浮かぶ周囲約4キロの岡山市唯一の有人島。良質な石を産出し、古くは岡山城、大阪城の石垣などに使われました。1909年、犬島製錬所が開設された後は、最盛期に5,000人から6,000人あまりの人が生活していましたが、銅の価格が大暴落し、わずか10年で操業を終えました。現在の人口は約40人となっていますが、近代化産業遺産である製錬所跡を美術館として再生・保存し、現在ではアートの島として脚光を浴びています。

